

静岡市立西奈中学校のPTA MAGAZINE

# SUBAKO

巣箱  
すばこ



静岡市立  
西奈中学校  
PTA広報委員会  
[2021.3発行]

No.107

その世界に入り込んでませんか？

## CONTENTS

- 「ネット依存」にならないために
- 地域防災の日
- 西奈中学校2020新型コロナ対応



## e-SUBAKO

静岡市立西奈中学校PTA広報誌〈巣箱〉電子版

西奈中の情報満載！詳細はコチラ！

e-subako

検索





# 「ネット依存」にならないために

## 「ネット依存対策プログラム」を通した取り組み

はじめに



中学校のスクリーニングテストの結果も一部抜粋して掲載したいと思います。

今年度、西奈中学校では「ネット依存」

対策として「ネット依存対策プログラム」

が実施されました。「ネット依存」という言

葉は頻繁に耳にするようになりましたが、

「どうなったらネット依存なの?」「自分は

(うちの子は)ネット依存なの?」「ネット依

存にならないためにはどうしたらいいの?」

等、不安を抱えている生徒や保護者は多い

のではないのでしょうか。

そこで今回の広報誌では、学校で実施

されたプログラムについて、そしてネット

依存への対策についてもっとよく知るた

めに、本校でこのプログラムを実施して

くださった一般社団法人青少年ネット教

育アカデミー副理事長の斎上達さんにお

話を伺いました。斎上さんは、これまで県

内各地の小中高等学校、企業等で講演

や教育プログラムを実施されています。

本校以外の状況も踏まえて、分かりやす

くお話しいただきました。さらに、西奈

▼Q.まず、「ネット依存」とはどういう状態なのでしょう?

A.「ネット依存」とは、「その人にとって

すべきことができない状態」にあること

をいいます。中学生でしたら、勉強や部

活動に支障が出てしまいますし、大人で

したら仕事に行けない、子育てができな

くなるといった状態です。

▼Q.「青少年ネット教育アカデミー」

について教えてください。

A.私たちは元々、医療機器事業とIT事

業を行うグループ会社に所属していまし

た。IT事業では、ゲーム制作関連の仕事

もあります。医療とIT、両方の情報が

入ってくる中、「ネット依存」の問題を強

く感じ、社員でNPO法人を立ち上げ

たのが始まりです。現在は学校を対象と

した教育プログラムの実施や講演を多

数行っていますが、企業での社員教育な

ども行っています。

▼Q.中学生はどういった傾向なのでしょう?

A.二つ存じの通り、中学生はとても不安

定な時期です。家庭や友人の中で「自分

の存在を認めてほしい」という気持ち

が強くあります。また情報に左右されやす

く、面白いことにのめり込みやすい年齢

でもあります。大切な時期といえますの

で、何とかネットを使わせながらも依存

させないように、上手に乗り切ることが

大切です。

▼Q.現在「コロナ禍」ですが、ネット依

存に影響はありますか?

A.「コロナ禍」による休校で、よりネット依

存が深刻になる事例が頻発しています。

休校中に乱れてしまった生活習慣を戻す

のが大変だった生徒さんが多いのだと思

います。

▼Q.今回西奈中学校で行われたプログラ

ムの内容を教えてください。

A.今回実施したのは、「ネット依存対策

プログラム」です。このプログラムは三本

柱で構成されています。

一つ目は、四月に行われた「ネット依存

度スクリーニングテスト」です。これは医

療の観点から依存度を判断し認識する

もので、親子間の認識の差異も明確にな

ります。このテスト結果が、その後の対策

を行うデータになります。

二つ目は、講演会の実施です。学校全

体の結果等も報告しました。

三つ目は、「宣言書」と「報告書」です。

これは、長期休みの前後に生徒に自分で

考え作成して

もらいます。こ

の際、先生方が

各生徒にアド

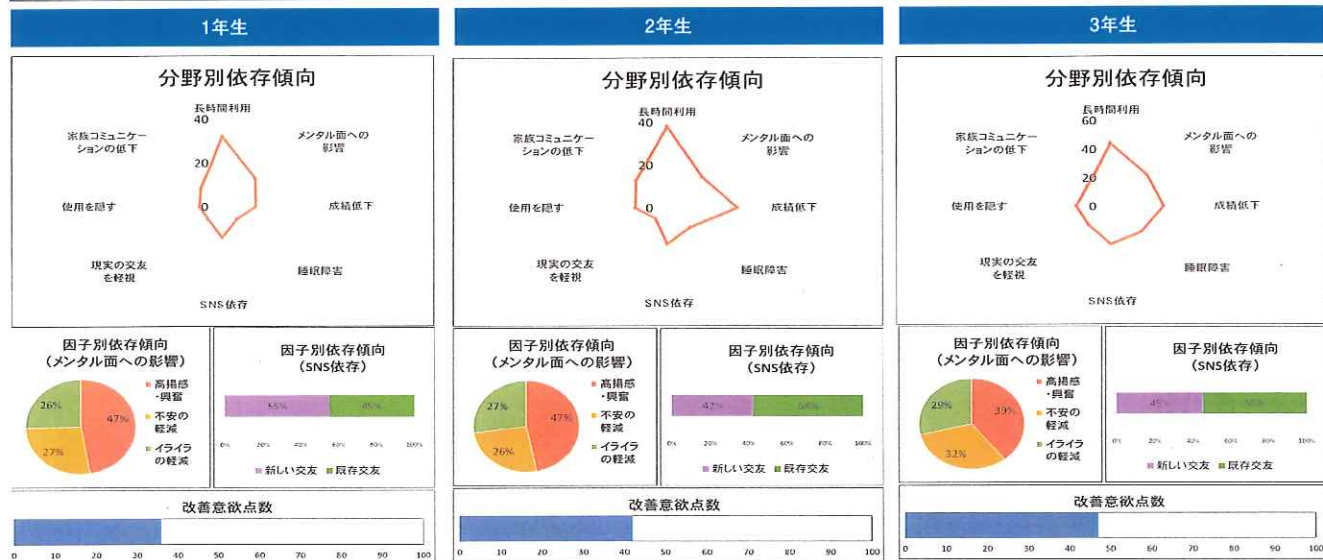
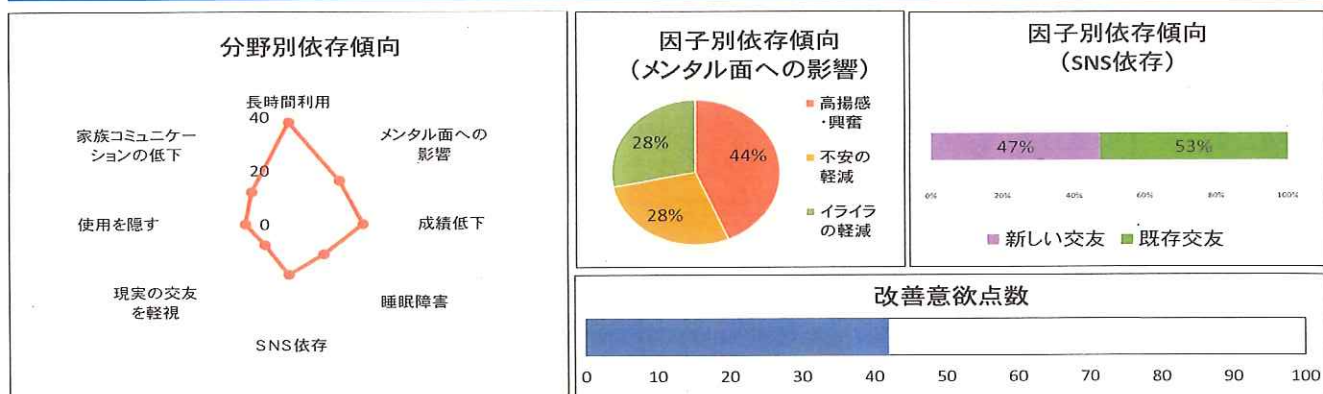
バイスをして

くれていると

思います。







## 西奈中学校の結果



西奈中学校では、「依存リスク該当者」

が156名で、全体の44.7%でした。県内の平均は42.1%です。44.7%というのは、非常に高い数字とまではいかないのですが、対策は必要です。親子間の差異は17.8%。つまり、生徒自身と認識がずれている(厳しく見ていたり知らない状態である)保護者が20%近くいることになります。こちらも低い数字ではありません。注目すべきは、「因子別依存傾向」において三年生になると「不安の軽減」の割合が高くなることです。受験を控えた三年生の気持ちがよく表れています。斎上さんによれば、この「不安」や「イライラ」を解消してあげることが非常に大切だということです。

## 周りの大人ができること

保護者が参加した講演会では、具体的な例を交えながら対策をお話していただきました。その内容を振り返りながら、もう一度周りの大人がどう行動したらよいか、何ができるのかお話を伺いました。

▼Q:講演会では「子供に考えさせることが大切」とおっしゃっていましたが、

つい「やめなさい」と言ってしまします。なかなかうまく導くことができない家庭が多いと思いますがアドバイスはありますか？

A:スマホやゲームを感情的に取り上げたりのしないほうがよいでしょう。というのも、たとえば家庭や学校で不安やイライラがあった時、昔ならば外に遊びに出かけるというのが普通で、この場合長くは外出していられず結局戻ります。しかし今はネットの世界に逃げる事ができるわけです。ネットの世界では役割があったり認められたりする場があるため、のめり込みやすいのです。するとまた親に注意され、さらにネットに逃げる...という負のスパイラルに陥ってしまいます。取り上げるのではなく、ゲームやSNSにそれほど依存しなければならぬ子どもの承認欲求をよく予想しましょう。そして「リアルな家庭の雰囲気」で、それを少しでも満たしてあげられるようにコーディネートしてあげる意識を持つ事が、まずは優先事項です。

次のページへ





▼Q.自分の考え方・行動に自信のある親ばかりではないのが現状です。何か良い方法がありますか？

A.県内の学校で、親子でネットの活用記録をつける取り組みをしたところがあります。ポイントは「親のネット利用状況も正直に書き、子どもと共通の土台を得る」ということです。生徒も保護者も一日の流れとネットの使用を記録し、使用のメリツトや使わなければ何ができたか、などを記入します。使用時間が多い場合はお互いにアドバイスをします。人にアドバイスをするということは、「自分もやらなくては」という気持ちになりとても良い効果があります。

▼Q.ネット使用のルールを自分で決めてもらうのがよいとのことでした。気を付けることはありますか？

A.ネット依存の予防策として、一方的に決めつけず親子で決めてください。守れなかった時の「メタルール」を決めておくことも大事です。講演会でお話した、「守れなかったらスマホの充電をリビングでする」などが具体例です。この時、かけ



引きで物をあたえるのは避けたほうがよいでしょう。悪気なく、祖父母が与えてしまう事があるので、それも注意しましょう。愛情が十分であれば、物を与えなくても自然とできるようになります。ルールを守れた時は必ず褒めてあげるのも忘れないでください。

▼Q.親との関係、家庭環境も原因になるとのことでした。私たち大人ができることは何でしょうか？

A.ネット依存の症状は、その子の心が氷山の一角として現れたものです。根底には、家庭や学校での不安やイライラが必ずあります。ネットは心の避難先となっているわけです。親として注目し考えるべきなのはネットの使用そのものではなく、その子の不安やイライラであり、ここを解消してあげることが一番大切です。

子供のために、居心地の良い家はどう提供できるかを考えてください。その家庭から社会に送り出してあげるわけです。そして上手に子供を認めてあげてください。これは親自身に余裕がなければできませんので、親が自分自身を見つめるということにもなります。

▼Q.最後に、来年度も学校でのプログラムが継続されると聞いています。ネット依存に関して本当に困ったら、アカデ

ミーにも相談することは可能ですか？

A.学校でのプログラムを受けている生徒さんは、無料相談サービスを受けることができます。また個人的に、「ネット依存ケアシステム」のサポートを申し込む方もいらつしやいます。心理テスト等を行い、6か月間アド



バイスをしながらサポートをします。ぜひ活用していただけたらと思います。

## おわりに

今回のお話では、ネット依存対策の本質は、表面的な対応ではなく生徒達の心の奥に注目しケアをするものであるということをお話させていただきました。また一方的ではなく、生徒を認めながら一緒に取り組むことが大切であると強く感じることができました。ネットは一つの道具にすぎません。そこに善悪を生むのは使っている人です。この時期に、ネットという大変便利な道具の正しい使い方を覚えることは、将来大きな財産となります。

PTAとしても、この取り組みを応援していきたいと思います。



## 静岡ICTエキスパートメンタルケア心理士

一般社団法人  
青少年ネット教育アカデミー  
副理事長

齋上 達  
Itaru Saijoh

IT、社員教育及び高度医療管理機器事業を担うグループ会社で従事。「IT&医療&教育」の観点から、子どもたちの「ネット依存」問題の予防対策を強く感じ、仲間とともにNPO法人を設立。県内の各小中高等学校、保護者会、子育て支援センター、生涯学習センター、企業などで独自の「総合情報モラル教育」「ヒューマンリテラシー教育」を実施。静岡県出身。

一般社団法人 青少年ネット教育アカデミー  
[事務局]〒421-0115 静岡市駿河区みずほ3-4-6 ☎054-259-3181

※ネット依存・ケアシステム等の詳しい情報はホームページをご覧ください URL <https://net-ed.org/>





# 「ネット依存対策プログラム」実施の感想

今年度行われた「ネット依存対策プログラム」を通じ、皆さんがそれぞれ自分の立場で受け止め、真剣に今後を考えたのではないのでしょうか。ここでは、西奈中学校で行われたプログラムについての感想をご紹介します。

(2020年7月・11月実施「ネット依存度スクリーニングテスト／結果報告対策講座」参加者アンケートより抜粋)

## ネット依存度スクリーニングテストについての感想

生徒

- ・自分がどれほど依存しているのかが、目で数値として見られたので良かった。
- ・実際にスマホを使っている時間や使い方を直すことができた。
- ・自分もどれくらい使っているのだろう、依存していないのかなと心配していたのでありがたかった。
- ・親の意識と自分の意識を比べることができて、自分の見方の甘さを知ることができた。
- ・こんなに使っていたり、家族とのコミュニケーションが少なくなっていたりしたことが今回のテストで分かった。
- ・ほかの学校の事を全然知らなかったのも、自分の学校が結構依存していることを知ってびっくりした。
- ・来年には受験があるので本当にやめようと思った。



先生

- ・自分が担任するクラスの子達のネット依存度が分かり、今後の指導に生かすことができる。
- ・家庭でのネット使用状況が分かった。・保護者と生徒の認識について知られたのが興味深かった。
- ・子供たちが自分たちの結果を客観的に振り返ることがとても役立ったと思う。
- ・今後保護者との面談に使用し、生活改善すべきところは改善させ、ネットを上手に使っていく生活スタイルをつくっていかねばと思う。

保護者

- ・親子で落ちついて話し合うことができた。・子供のネット依存度を、子供との共通認識としてとらえることができた。
- ・ネットに対して子供と親の認識の差が分かった。・親子で確認でき、とりあえず依存ではなかったので安心することができた。
- ・親子共々、スマホ・タブレットに対しての意識が変化したように思う。・今後気を付けていかねばと考えるきっかけになった。
- ・(ネットを)やりすぎという事実だけでなく、イライラとかさみしさなど心の状況を知ることが大切だと分かった。

## 結果報告対策講座についての感想

生徒

- ・限度を守ることは大切だと思った。
- ・自分は長時間の利用で依存度が高いので、タイマーを設定するなど、自分で防がなければいけないことが分かった。
- ・ネットの使い方にメリハリをつけて使っていきたいと思った。・しっかりと家でルールを決めて使用するようにしたい。
- ・優先順位を変える。ゲームから時間を少なくしていく。・まだ治していけると言われた時は安心した。・今回の話がなければ自分では変わらないと思う。
- ・「自己管理能力」がつくように、自分で決めたことはしっかり守ることを考えて、ネットと向き合っていこうと思った。
- ・ネットに関わる人(顔を知らない人)には注意しようと思った。・「ふざけた」だけでは取り返しのつかないこともたくさんあるから、怖いものと思った。
- ・これからは少しずつ使用時間を減らして、受験に備えたい。
- ・SNSはとても便利なものだけど、それをどう使うかによって将来や受験にも関わってしまうから、高校生になっても気をつけたい。



先生

- ・映像が具体的で分かりやすかった。生徒達も自分と比べて考えることがあったようだ。・子供たちが自分たちの結果を客観的に振り返ることができた。
- ・西奈中の傾向が県平均よりも高く、状況として良くない。気を付けなければならないことが分かった。
- ・就職試験の際に会社が志望者の名前を検索しているというのが、生徒たちにとって驚きだったよう。ネットの過剰利用の抑止になればと思う。

保護者

- ・目からウロコなことが多かった。・自分の学校の傾向について分かって良かった。
- ・強制的に一方的にやめさせない方がよいという事がわかった。・中高生が困った時、親に相談するのが48%と低く驚いた。
- ・親子のコミュニケーションが大切だという事がわかった。・今まで以上に子供との会話を大切に増やしていきたいと思った。
- ・ルールについて今一度話し合ってみようと思う。・「優先するもの」「将来の自分にとって」これらをキーワードに家でも子供と話をしていきたい。
- ・少しずつでも他の事に興味を持つ大切さを話したい。・もう一度家庭で話し合うきっかけができた。
- ・今ならひどくならないうちに何とかできると分かったので、家族での会話を増やし、ネットにかかわる時間を減らせるよう努めたい。
- ・どう助けてよいか、親も方法が分からず、子どもも抜け出せなくて、悩んだりあきらめたりをくり返してきたが  
目標を持たせること、励ますこと、子供が好きな別のことに置き換えるなど、具体的な方法が分かった。
- ・子供に理想論ばかり話していたと反省している。「人生については親の方がよく知っている」の言葉で目覚めた。
- ・親はネット操作では子供に負けるが、社会経験が豊富なのでアドバイスできる、という助言がとても胸に響いた。親として自信をもって見守っていきたい。
- ・メタルールを利用して、少しずつ改善していきたい。親子共に依存の深刻さを理解して考える習慣をつけたい。



# 「防災の日」



師走らしい寒さが感じられた12月6日西奈中学校で防災講話が行われました。12月の第一日曜日ということで、本来ならば「地域防災の日」として、各地区にて炊き出しや救護、初期消火等の訓練が行われ、そこに生徒も参加するはずでした。しかし、今年はコロナ禍により当初より訓練内容を縮小して行う予定でしたが、それすら感染拡大により中止となってしまいました。

ただ、中学校では防災意識を向上させることができるこの貴重な機会を生かすべく、被害想定や避難経路の確認、防災BOXの確認といった学年別の活動の他に、西奈南学区自治会連合会副会長山口三様を講師としてお迎えして、全校放送で自身の体験を元にした防災講話を行っていただくことになりました。

山口様からは、幼いころにあった1958年の狩野



川台風や1974年の七夕豪雨の話など、ご自身の体験をお話いただきました。その語り口は穏やかながらも実に迫力があり、これまで教科書などでは読んだことのなかった災害を、まるで追体験するかのように静かに聞き入っている生徒の姿が各教室で見られました。とりわけ、山口様の「自分の命は自分で守る」「助けられる人から助ける人へ」という言葉は生徒たちの心に確かに届いているようでした。

講話の後は各学年でそれぞれの防災活動を行いました。1年生は4階のオープンスペースにて、校長先生より東日本大震災で被災した釜石東中学校や大川小学校等を訪問された時のお話や、2018年にブレイクした「君の名は」が実は東日本大震災をきっかけにして生まれた事などを真剣に聞きました。その後、PTA会長の天野より「地域の一員として一緒にこの町を守っていきましょう」との言葉とともに代表の生徒に防災BOXが贈呈されると、代表の生徒は「頂いた防災BOXに一人一人が必要だと思入品を入れていざとい

うときに活用できるようにしたい」と力強く答えていました。

2年生は体育館と格技場、3年生は教室で少人数グループに分かれ、災害対応カードゲーム「クロスロード」を行いました。これは、各人がそれぞれの役割を担当し、災害対応を自らの問題として捉え、あらかじめ備えることの重要性を体感できるものです。生徒たちは、それぞれ与えられた状況と役割(例えば避難所の職員)の中で出来ること、出来ないことを真剣に話し合っていました。その後、自分で作った防災BOXの中身を確認しました。



今だ新型コロナウイルス感染症収束の目途が立っていない中、これまでにない「地域防災の日」でしたが、防災講話や東日本大震災被災地の話、「クロスロード」ゲームを通し、生徒一人ひとりが抱いた思いを今後に生かして欲しいと思います。



## 防災講話感想

### 防災講話の感想

2020. 12.6

今回の話を聞いて「自分の身は自分で守る」ということが大切だと思いました。

火山の話は聞いたけれど1階に避難するのは東日本大震災です。避難訓練を前からやっていたおかげで全員が亡くなった。このことはとても大切なことだと思いました。

訓練をきちんとやっていたとしても本当におきた時はあはてしようがないかと思いました。1階と2階の判断を高いところへ逃げた。この判断をできたのはすごいと思いました。自分もおきた時のためにきちんと訓練に参加し、正しい判断をとれるようにしたいなと思います。

また、いつきても大丈夫なように防災ボックスなども用意しておきたいと思いました。

### 防災講話の感想

2020. 12.6

今日の防災講話では、豪雨による被害、日頃の防災訓練の大切さを知ることができました。

自分は小学校の自由研究で七夕豪雨について調べた時、その恐ろしさを知ったつもりでしたが、実際にそれを体験した人の話を聴くと、想像を越える被害だったんだと感ずることができました。

毎年行われている防災訓練でも実際に地震が起きたら、自分の命だけでなく、他の人の命を救うようにしないとダメだと思ふようになりました。



# 「新型コロナ対応」

## 西奈中「新しい生活様式」

昨年6月休校措置解除から半年、とにかくウィルスを校内に持ち込まないために検温、健康観察、家庭への注意喚起を行ってきました。また、「西奈中の新しい生活様式」を作成し、生徒用の机の配置、意見交換時の配慮、授業内容変更、行事の中止や実施方法検討など授業等における「3密」を回避するための手立ても講じてきました。これまでコロナウィルス感染拡大防止対策に西奈中職員一丸となって取り組んできましたが、まだまだ、気を緩めることはできません。今後も折に触れて生徒、保護者に感染防止対策への協力を呼びかけていきたいと思います。ご協力よろしくお願いいたします。

西奈中学校 校長 近藤 高伸

## コロナ禍中のPTA活動

昨年2月の緊急事態宣言以来、これまでの様な人を集めての活動ができなくなっていました。しかし、この状況でもPTAで出来る事があるはず、との思いで活動を行いました。そんな中から、まずは子どもたちが再開後に安心して学校に行けるよう、消毒液と特別教室の扇風機を寄贈させて頂きました。また、リユース品販売、ウォーキングパトロールと役員や希望者のみで出来る事を新たに始めました。ただ、クリーン作戦が結局実施できず、40人超のボランティアの皆さんの気持ちを無にしましたのが心残りです。来年度も子どもたちの為に出来る事を考えて行きたいと思しますので皆様のご理解、ご協力をお願いします。

西奈中学校PTA 会長 天野 友幸



検温風景…朝微熱があったり、調子が悪いときなど学校でも検温しています。



現在の教室風景…6月より一人一人席を離れて授業を受けています。給食時と同じで一人一人前を向いて食事しています。

## 西奈中学校2020新型コロナ対応

黒字…社会の動き 赤字…学校対応 青字…PTA対応

日付	社会
2019 12月	中華人民共和国湖北省武漢市において、原因不明の肺炎患者が発生
2020 1月9日	WHOは上記肺炎患者から新種のコロナウィルスが検出されたと発表
1月16日	武漢への渡航歴のある国内初の肺炎患者(神奈川県男性)発生
2月3日	横浜港にダイヤモンドプリンセス号寄港(乗客約3,700人)
2月27日	安倍首相が3月2日からの一斉休校を要請
2月28日	静岡県で最初の感染者が判明(ダイヤモンドプリンセス号乗船者)
3月9日	専門家会議「3条件重なり避けて(三密)」呼びかけ 三役会、運営委員会…4月資源回収を生徒、PTAから業者回収に変更。
3月11日	WHOが「パンデミック」を宣言
3月19日	卒業式(来賓PTA会長のみ)
3月24日	東京五輪1年延期決定
4月7日	"東京、埼玉、神奈川、千葉、大阪、兵庫、福岡において緊急事態宣言発令 入学式(来賓PTA会長のみ)、始業式 三役会、運営委員会…書面総会実施、クラス委員決めを行わない事、感謝祭中止決定、視察山梨県とクリーン作戦は延期、また、7月まで三役会、運営委員会を開催しないこととする。
4月16日	緊急事態宣言の対象を全国に拡大(区域変更)
5月1日	登校日 朝の検温、健康観察開始
5月11日	登校日
5月14日	静岡県他39県に対する緊急事態宣言解除
5月15日	登校日
5月18～21日	分散登校開始(3年-月木、2年-火、1年-水)
5月25日	緊急事態宣言が全国で解除される 休校措置解除(午前授業のみ)
5月27日	「西奈中新しい生活様式」紹介・実施。書面総会資料配布。
6月8日	通常授業開始
6月9日	学校側とPTA役員との意見交換会実施、書面総会開議作業。
7月1日	合唱祭中止決定
7月7日	三役会、運営委員会…西奈祭、クリーン作戦はボランティア募集で対応とする。
7月16日	PTAより特別教室の暑さ対策として扇風機を寄付。
7月22日	Go To事業(Go Toトラベル)開始
7月23～26日	中体連代替大会
8月1日	夏休み開始
9月	修学旅行中止決定(代わりにお別れ遠足を拡大する)
9月8日	三役会、運営委員会…学校側より西奈祭無観客実施の連絡。 11月14日制服等リユース品販売実施決定。
10月13日	三役会、運営委員会…11月21日クリーン作戦実施決定。
10月17日	西奈祭(無観客)
11月10日	政府分科会が緊急提言「急速な感染拡大の可能性も」。三役会、運営委員会
11月14日	授業参観、ネット依存講習会。第1回制服等リユース品販売実施。
11月19日	国内感染者数2388人、東京534人で共に2日連続で過去最多
11月21日	新型コロナ感染拡大によりクリーン作戦中止。
12月2日	健康観察、家族項目追加。第1回なおウォーキングパトロール実施。
2021 12月15日	Go Toトラベル全国一時停止
1月8日	1都3県対象に緊急事態宣言発令(～2月7日)
1月12日	お別れ遠足方針検討。三役会、運営委員会。
1月14日	栃木、岐阜、愛知、京都、大阪、兵庫、福岡に緊急事態宣言拡大



# PTA活動報告

## 日本PTA全国協議会会長賞

日本PTA全国協議会が主催する「第42回全国小・中学校PTA広報紙コンクール」において、西奈中PTA広報紙「SUBAKO（巣箱）」が全国No2の「日本PTA全国協議会会長賞」を初めて受賞しました。

このコンクールには、全国から小中学校およそ5,000校が応募し、各都道府県PTA連絡協議会での第一次審査を通過したおよそ600校の中から、日本PTA全国協議会による第二次審査、第三次審査を経て、最終審査にて、PTA広報紙の持つ目的・使命・記事・編集・レイアウト・見出しなどの評価が総合的に優れていた44校の広報紙が表彰されました。今号は県、市でも最優秀賞を受賞しており、胸を張れる紙面であることは間違いなく発行に携わった全ての方に感謝いたします。



## ウォーキングパトロール



オープンチャット「ながおウォーキングパトロール」  
参加コードを訊かれたら「nagao」と入力してください。

令和2年12月2日水曜日、第1回ながおウォーキングパトロールが実施されました。これは、西奈中学校、西奈南小学校両PTA合同で、第1,3水曜日の月2回、19時30分より学区内を1時間ほどパトロールし、塾や習い事等で夜間外出する必要がある子どもたちを守ると共に、参加者の健康増進、交流を図る目的で始められました。パトロールのルールはただ一つ「大きな声で挨拶する」です。



元は静岡東中学校で始められた活動で、今回は西奈中学区での第1回ということで、静岡東中学校の前PTA会長清水さん、静岡中央署から3名の警察官もご参加頂き、PTA参加5名の合計9名で西奈中学校をスタート/ゴールとするおよそ4kmのコースを約1時間かけて歩きました。コロナ禍も有るのか道中すれ違う人はそれほど多くはありませんでしたが、一人ひとりにしっかり挨拶することができました。

道中お喋りを楽しみながらウォーキングするだけという、気楽に参加できる活動になっていますので、まだ参加したことがない方はぜひ一緒に地元を歩きましょう！なお、参加希望の方は上記QRコードからLINEオープンチャット「ながおウォーキングパトロール」に登録頂くか、お近くのPTA役員までお声をおかけください。

## 制服等リユース品販売



11月14日土曜日、学校公開日に合わせ初めての「制服等リユース品販売」を格技場で行いました。これは、資源回収と共にエシカルな活動を増やしていけるPTAで有りたいとの思いから始められた試みです。

2020年3月、10月と2回の回収期間で制服・体操着等60点程を集め、西奈南小4年生以上と中学校のご家庭へと案内を配布しました。

当日は開始と同時に在校生や4月入学予定の保護者の方々が来ていただきじっくりとご覧になって行われました。私達も我が子の成長の仕方を元にお話しをし、お買い物のお手伝いをさせていただきました。約2時間の販売で計10点5,500円の売上となりました。

今回の経験よりこの活動に対する手ごたえを感じた一方、回収の仕方、アナウンス方法、販売時期等見直すべき所も出てきましたので、この反省を生かし次回へと繋げていたいと思います。



【発行】静岡市立西奈中学校 PTA広報委員会  
【住所】静岡市葵区東瀬名町14番1号 ☎(054)261-3040  
【HPアドレス】http://nagao-j@shizuoka.ednet.jp/  
【SUBAKO】https://e-subako.com

巣箱 第107号  
【2021.3発行】  
静岡市立西奈中学校 PTA広報委員会  
生徒数 348名 家庭数 326名  
ご多忙中、取材に携わってくださった皆様、ご協力ありがとうございました。この場をお借りして感謝申し上げます。

